

あざみ沢通信

第37号

R1年度第2号
長野県野沢北
高等学校
PTA広報委員会

北高生の探究力に期待

PTA会長 土屋 和久



新たな令和という時代を迎えた5月、平成を名残惜しみつつも新時代への期待が日本中に高まるなか、PTA総会を経て、令和元年度のPTA活動を進めて参りました。

国内外のあらゆる分野では、今年度も大きな出来事がありました。とりわけ地球温暖化現象に起因する異常気象による洪水や干ばつ、熱波、森林火災など、世界各地で深刻な事態が生じています。佐久地域においても、10月12日の台風19号により甚大な被害を受けました。本校においては、先生方が、生徒の安全確認、被害状況の把握、授業時間の変更など、迅速に対応してくださいました。一方、日本中が歓喜に湧いた出来事もございました。日本で開催されたラグビーワールドカップでは、アイルランド、スコットランドなどの強敵を撃破、見事ベスト8に輝きました。チーム目標のもとに個々の強い使命感と責任感が結集、緻密な戦術を用いて、自由自在なチーム一体となった戦い方は、大変感動いたしました。

PTA活動においては会務計画に基づき、5月の講演会の開催（講師・小木田順子さん 幻冬舎新書編集長）、7月の長野県高等学校PTA連合会総会および北信越高等学校PTA連合会研究会への参加、夏季校外巡視の実施、10月のあざみ沢通信の発行、11月のPTA教養講座の開催（講師・櫻本一平さん 佐久病院理学療法士）などの活動を行って参りました。会員皆さまのご協力を賜り、ありが

とうございました。

私は、2年間、PTA役員を務めさせていただき、以前よりも学校へ伺うことや学校行事の様子に気を留めることができた気がいたします。学校へ伺った際は、いつも生徒さんが大変気持ちのよい挨拶をしてくださいました。なかなか簡単なことではないと感心しています。学校行事では、私も経験した応援練習、日輪祭での第九などといった伝統行事が受け継がれており、生徒の皆さんが真摯に取り組んでいる姿に誇りを感じます。応援練習は、批判的思考の方もいるかもしれませんが、応援団の生徒は先輩から受け継いできた伝えるべきことがあり、受ける生徒は感じとり、北高生になっていく過程のひとつだと思います。一方で新たな取り組みとして前号にも触れましたが、スーパード探究校として県の指定を受け、探究的な学びにより一層の力を入れていきます。大変複雑な問題を抱える現代社会において、探究力は解決の重要な鍵となり、その欠如は、より深刻な事態を招くことになりかねません。今後ますます必要とされる能力となることでしょう。

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。北高での学業や様々な活動を通じて養った力が、今後の努力とともに、夢を実現する大きな推進力になることと思います。こうした環境に身を置いたこと、また新たな環境における周囲への感謝と敬意を持ちながら歩みを進めてください。ご活躍を期待しています。

「新しい学び」に向けて

学校長 北澤 潔



保護者の皆様には、日ごろより本校の教育活動につきまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年十月には、台風十九号が中部地方に上陸し、長野県においても、北東信を中心に甚大な被害をもたらしました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。十三日の

十時過ぎに、学校からオクレンジャーで生徒及び保護者・家族等の安全確認依頼の緊急連絡を行いました。回答機能による確認と若干の電話による確認により、本校は午後二時半にはすべての安全確認を終了いたしました。回答へのご協力ありがとうございました。台風十九号関係で、オクレンジャーで情報提供又は調査への回答をお願いした回数も三学年を中心に二十回程度。回線に混雑がなかったこともあり、その機能を十二分に発揮しました。情報提供等のあり方や方法等については、今回のケースを十分に検証し危機管理等に活かしてまいりたいと思います。

さて、本校は本年度、県の「未来の学校」構築事業の研究校の一つである「卓越した探究的な学びを推進する高校（スーパード探究校）」に指定されました。県外先進取組校（鳥取県の鳥取西、青翔開智）、県立長野図書館への視察を行うとともに、別事業ではありますが、PBLやSTEAM教育において世界でも先進的な取組を行っているサンディエゴのHigh Tech Highへの研修にも本校教員を派遣することができました。「探究的な学び」の必要性和取組については、「高校改革」夢に挑戦する学び「実施方針」に示されているとともに、一月に佐久地域の高校の将来像を考える地域の協議会が県教育委員会に提出した「佐久地域の高校の将来像について」の意見提案においても、この実施方針を踏まえてその必要性が説かれています。実施方針では、高校での学びを、従来の知識を蓄えることを中心とした学びから、主体的に人生を切り拓くための学び、能動的な活動の過程で理解を深めることを中心とした学びに転換していく必要があるとしています。「これからの教室は知識伝達の場合から創造の場に変わっていかねければならない」という経済産業省の浅野サービス政策課長の指摘がこれを端的に示しています。入試対策やテストのためのだけの授業・学びとならないような認識を関係するすべての人がもつことも必要になってくるかもしれません。

今後とも引き続き、地域の期待に応えられる学校づくり尽力してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

P T A 教 養 講 座

「腰痛体操」に参加して



十一月三十日に、本校で開かれた腰痛体操の講座には、腰痛予防や解決法に興味のある方が集まりました。私も、我が家の納戸の奥にあるクリスマスツリーのセツトに手を伸ばした時に、ぎくつとなり、腰に違和感を覚えました。気のせいと思って過ごしていましたがなかなか治りませんでした。そんなときに今回の企画が目がいき、「腰痛を改善し、仕事もスムーズに」というテーマにとっても惹かれました。

講師は、本校卒業生で、佐久病院の理学療法

士、他県でも講師として活躍していらつしゃるという、とても頼もしい櫻本一平先生でした。はじめに、人の筋肉のメカニズムについて専門的に聞きまし

した。痛い原因はどこにあるのかを知ることから、治療が始まるという点に、とても納得してお聞きしました。動かしてよいときと、安静にした方がよいときがあるそうです。また、有酸素運動が効果があるということ、簡単なストレッチを紹介していただきました。椅子に座りながらの無理のない誰にもできるストレッチでした。息を吐きながら、鎖骨の神経を押し、首をゆっくり曲げるストレッチは、首こり肩こりの人に有効です。数々のストレッチを、体験していくと体が温まりました。最後の感想発表では、「痛みがとれた」とか「体がかかるようになった」などの感想があり、とても有意義な時間でした。

松島 淳子

PTA教養講座 「腰痛体操」

11月30日(土)野沢北高校小体育館

講師：佐久病院理学療法士 櫻本一平氏
(本校卒業生)

他県においても講師として招かれるなど、アセスメント能力が高く、患者さんの信頼が厚い経験豊富な理学療法士を招き、腰痛のメカニズムをもとに痛みの軽減・予防について体操を通して学び、仕事や家事がスムーズに行えることを目的に企画。

アンケート結果

講演会は いかがでしたか？

大変よかった	13名
よかった	2名
ふつう	0名
物足りない	0名

具体的な感想

- 一つ一つのことがとても参考になりました。一生懸命伝わるように教えてくださる先生の熱意が伝わってきました。
- 自分も腰痛持ちなので、座りながら手軽にできる体操を教えて頂いてよかった。腰痛の起こるメカニズムもわかった。
- ふだん運動を全くせず、体がかたまっていました。カンタンなことで体がほぐれ、よかったです。ありがとうございました。
- 体を動かして気持ちも良かったです。日常の生活に今日教わった事をとり入れ、体のお手入れをしていきたいです。
- 家でも簡単にできるストレッチで、体がやわらかくなり、腰痛や肩こりが楽になりました。体を動かす前と後では、体の曲がり方が驚く程ちがってびっくりしました。普段の生活にとり入れて元気にすごしたいと思います。
- 腰痛の原因が腰にあるものだと思っていましたが、体全体から影響がある事が分かり、とても良かったです。
- この体操で、体を動かして腰痛から脱出したいと思います。
- からだのしくみが分かりやすく、簡単にできるストレッチがよかった。
- 自分の体がどうなっているか、もう少し知ろうと思えましたし、いかに硬くなっているのわかりました。楽になりました。参加しやすいです。
- 体の動きが体操によりとてもスムーズになった。とても勉強になったし、日頃から体操する事の大切さをあらためて感じました。ありがとうございます。
- 体の使い方や筋肉のなり方、場所をわかりやすくお話していただき、大変役に立ちました。

1 学年 学校生活

「東京合宿を終えて」

一年五組 中田 陽葵



台風十九号の影響で中止も心配されましたが、予定通り学習合宿に行くことが出来ました。また、今年度は初めて国立オリンピック記念青少年センターの研修施設で学習合宿を行いました。普段とは違った環境の中で授業を受けるのは新鮮で、大学共通テストや模試を意識して五十分授業ではなく八十分授業を受けられたことは良い経験になりました。環境や時間だけではなく、「佐久の和歌のパンフレット作り」に取り組むなど内容的にもより探究的な学びを通して考察のおもしろさに気づけたのも合宿があったからこそだと思います。三日目は東京グローバルゲートウェイで実際にネイティブの方々と英語のみで交流をしました。文化に触れることでグローバルな体験が出来ました。また、農工大では研究室の見学や学生の方との交流をするなど

より詳しく知り、大学を体験することが出来ました。日々の生活では目の前の教材に注力してしまいがちですが、今回の東京合宿で学んだように視野を広げ、自分自身で体感するということを大切にしたいと思います。

「学習合宿での四日間」

一年四組 藤井 杏佳



十月に一学年は三泊四日の学習合宿がありました。携帯電話の没収など、普段とは違う状況での勉強は正直辛いものではありませんでしたが、「これは自分と向き合い、自分を変えるチャンスだ。」と思って取り組みました。一生懸命取り組みながら充実感を感じ、あつという間に時間は過ぎていきました。また、友達との会話も増え、楽しい時間でした。

四日間の中では、勉強だけでなく、台湾講演会やTGGという施設へ行き、英語だけを使った活動をするという貴重な体験もしました。四日目はクラス別行動で四組は、グループに分かれて観光地を訪れる外国人にインタビューをしました。日常生活では体験しないようなことで本当に不安でしたが、大きな経験となり、一歩成長できたような気がします。

学習合宿では、友達の姿から自分を知ることができた、ものの見方が変わった、など今後につながることを学ぶことができました。

「探究基礎を学んで」

一年三組 磯部 康

私たち一年生は、月曜七時間目の探究基礎の授業で、一年を通して学んできました。この授業を通じて私たちは、先人たちが積み上げてきた知恵をもとに、現在の社会が抱える問題、あるいは今私たち自身が積み上げてしまっている問題を、なるべく新たな問題を生まないように解決していかなければなりません。そしてこれは、個人として豊かに生きていくための時間でもあると思います。積極的に疑問点を見つけ、その解決策を思索する術を身につけるために探究という時間があり、そのための基本的なやり方を探究基礎で学びました。

探究は基本的にグループ学習なので、探究基礎も近い席同士のグループで行いました。まずはコミュニケーションから始まり、次に論理の構築の仕方や問いの立て方などを学習し、最後には問いに対しての個人の意見をグループに共有しあって討論しあいました。

また十二月には、二年生の先輩方の探究発表会を見学しました。そこでは多種多様な問いのそれぞれに対して、筋道を踏んだ結論が出されていました。独特な視点も多く、私たちの視点を広げられる良い機会になったと思います。またその中には、自分たちが発表する側になった時に気を付けなければならないと思う点がいくつかありました。中でも発表の仕方は特に重要だと感じました。面白いスピーチをした班の内容はよく記憶に残っています。

探究基礎で学習したものと探究発表会を活かして、私たちも一年後にひかえた探究発表会に向けて準備していきたいです。

学校生活



修学旅行

二年三組 牧野 葵

十月にとっても楽しみにしていた修学旅行に行ってきました。一年以上前から、修学旅行係を中心にどこへ行くかなどを計画して、準備を進めてきました。台風の影響で行けるか不安だったけど、無事に沖縄に行くことができました。個人的に一番思い出に残っているのは、民泊です。沖縄でしか売っていない食べ物や方言、文化などを体験することで普段の生活ではできないことが沢山できました。そして、平和学習では、実際に戦争中使われていたガマに入った

り、資料館の見学など直接見たり、体験することで事前学習で学んできたことがより深くなり、改めて平和について考えることができました。また、ほかにも、国際通りやちゅら海水族館、首里城などいろいろな場所に行くことができました。沢山の思い出ができました。修学旅行係の仕事もしつかりできたのでよかったです。あっという間に過ぎたけど充実した四日間でした。また行きたいと思いました。



沖縄修学旅行

二年四組 和田 陽貴

沖縄は本州とは違った気候や美しい自然、独自の文化に代表されるように異国情緒に溢れていて、普段は体験できないことばかりでした。民泊での沖縄の方達との交流は初めて尽くしで自分の殻を破る良いきっかけになったと思います。さらにはエイサーをはじめとする固有の文化や特別な体験が旅の行く先々で常に僕らを楽しませてくれ、とても楽しい旅行になりました。



しかし、沖縄はリゾートでもあります。戦争の遺産の地でもあります。ひめゆりの塔や米軍基地などをはじめとする多くのレガシーがあり、そこでは自分たちの国の歴史や認識を問われているような思いになりました。戦争はどうしてはいけなかったのか？この問いに必死になって答えようとした先輩がいたこともこの旅で学びました。これから大人になって行きこの問いに真剣に考えるチャンスがなくなっていくってしんどいと思います。だからこそ沖縄で考え、感じたことを大切にしていきたいです。



2 学年

「多面的な見方」

二年一組 笠原 菜緒

「探究ってなに？」皆さんならこの質問に何と答えますか。私は「探究とは、自ら課題を設定し、課題解決に向けて情報を収集・分析して仲間と協働しながら、自分なりの解決策を提示すること」だと思います。しかし、1年生の頃からこう答えられた訳ではありません。約二年間、多くの困難にぶつかりながらも、探究から学んだことを活かして、主体的に学んできたからこそだと思います。そんな探究が私に与えた学びは数多くあります。その中でも私にとっての一番の学びは「多面的な見方」です。私たちはこれまで「ゲーム依存症」をテーマに探究を進めてきました。大方まとまったスライドを確認して頂いた時のことです。「ゲーム依存症はなんで悪いの?」と質問されました。私たちは「当事者に悪影響を及ぼすから」と答えました。ここで皆さんは気づきますか。私たちの答えでは当事者という側面にしかスポットが当たっていないことです。本当の理由は、当事者だけではなく、その周囲の人々にも悪影響を及ぼしているからです。この時によ

う、私たちが当事者という側面のみ焦点を当てていたことに気がつきました。つまり、一面的な物の見方をしていたのです。これに気がつけたことで、私たちの探究はより一層深まりました。この「多面的な見方」は大切でありながらも、多くの人が見落としてしまいがちなことだと思います。これから生きていく私たちには多面的な物の見方が求められます。その力を養うために、皆さんも様々な方面から物事を見てみてはどうでしょうか。もしかしたら、新たな発見があるかもしれませんね。



「課題研究発表会を終えて」

二年五組 鈴木 京鼓

一年の冬休み、私たちは「論文を読む」という宿題を課されました。自分の興味のある研究論文を読んで、レポートにまとめなさいと言われたのです。読むだけでなくレポートにまとめなければならなかったのも、読み込むのにながりの時間を要したと記憶しています。冬休みが明けて、「論文ゼミ」という会が開かれました。各々が読んできた論文について四人ほどのグループで話し、論文に穴がないかを確かめる、というものでした。ここで大事だと言われたのは「定量的・定性的な実験をする」「結果に対する考察を必ずする」という二点です。この二点は研究が始まってからも再三言われました。

本格的に研究が始まって大変だったのがテーマ決めです。自分たちの最終的な目標をどうするのか考えることは意外と難しく、実験にとりかかるまでに多くの時間を費やしてしまいました。また、一度の実験に時間がかかり、データが足りず困ったこともありました。更に、主観的な考察になってしまい客観的な考察が出来なかつ

たり、定量的・定性的な実験がうまく出来なかつたりと、こうして振り返ると怒涛の一年でした。もし五組の人に「課題研究はどうでしたか?」と質問したら、「大変だった」という人がほとんどだと思います。本当に大変でした。けれど、だからこそこの一年で得たものはとても大きいです。課題研究を通して感じたことはそれぞれだと思いますが、私は、「課題研究をやった良かった」と心から感じています。



3 学年

卒業おめでとう

三年間をふりかえって

3年1組 塩川めい

高校生活も残りわずかとなった今、入学してから今日まで野沢北高校で過ごした3年間は、私にとってかけがえのない日々でした。

私がこの3年間で得た一番の宝物は「仲間」です。特に、多くの時間を過ごしてきた班活動の仲間の存在は、私にとって大きなものでした。私は運動班のマネージャーをやっていました。入班した頃は、失敗ばかりで選手たちにたくさん迷惑をかけていましたが、皆の協力のおかげで乗り越えることができました。また、選手たちの頑張る姿にいつも元気をもらっていました。班活動を通して、仲間と支え合うことの大切さや、仲間という存在の大きさに改めて気づきました。

高校生活で出会った仲間は私自身を大きく成長させてくれました。そして、これま

で見守ってくださった先生方、大事な時に背中を押してくれた両親の存在は本当に強い味方でした。ここまで来れたのはたくさんの支えがあったからです。この3年間で出会った仲間と過ごした日々を大切に、これからも頑張っていきたいと思っています。3年間本当にありがとうございました。

3年2組 伊藤みなも

高校生活も残りわずかとなり3年間でふり返ってみると、たくさんの思い出が浮かんできます。

その中でも特に思い出深いのはやはり班活動です。私は大会でなかなか結果が出せず、でもチームメイトはどんどん強くなって上位に入り、それが嫌でかなりひねくれていた時がありました。そんな私にチームメイトは声をかけてくれたり、アドバイスくれたり、一緒に練習をしてくれ、今考えても感謝しかありません。他にも、合宿でみんなで苦しみながら大量のごはんを食べたり、手作りおかしを持ち寄ってクリス

マスパーティーをしたり、おかし片手に班室でくだらない話をしたりと、食べ物の欠かせない女テニでの日々は一生ものです。

また、班活以外の学校生活でも、日輪祭や体育祭から何てことのない普通の日마다、友達のおかげで沢山思い出ができました。

3年間はあつという間でしたが、様々な経験をし、多くの人と関わることで人として少しは成長できたかなと思います。これからも周りへの感謝を忘れず毎日過ごしていきたいと思います。ありがとうございました。

3年3組 篠原碧那

高校生活を振り返ってみると本当に多くの思い出があります。強歩大会・文化祭・体育祭・修学旅行……。これら以外にも心に残っている思い出は数えきれない程あります。そんな中で一番思い出に残っているのは班活動です。

私はバレーボール班に所属していました。夏は暑く、冬は寒い班室での会話、いつも荒れるお菓子の争奪戦、全員で行ったデイズニーなど多くの楽しい思い出があります。しかし、中には辛いものも沢山あります。私は守備を行うポジションを任せていただいたのですが、初めて任されたポジションだったため最初は全く上手くこなすことができませんでした。しかし、チームのみんなは、私が崩されながらも上げたボール、次にさわる人にとって難しいものでも修正しながらつなげてくれました。ま

た、心が折れた時には声をかけてくれたり、一緒に悩んでくれたりと何度も助けてもらいました。お互い支えあっていた仲間達の存在は、私にとって大きなものでした。

野沢北高校で過ごした三年間での出会いや経験を通じ、大きく成長することができたと思います。周囲の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

3年4組 佐藤幹大

振り返ると高校三年間はあつという間でした。班活動、文化祭、競歩大会、修学旅行と様々な出来事が昨日のこのように思えます。競歩大会について言えば、私は、選手として参加はできませんでしたが……

その中でも、特に印象に残っているのは班活動です。仲間とともに日々練習してきた思い出は貴重なものでした。野球班の仲間たちは、個性的な人が多く毎日がとても楽しかったです。恒例行事となった生命の泉（水汲み場）の清掃など今思えばいいことをしたなと思います。また、私はこの三年間でだけができることが多く、チームのみんなや様々な人に迷惑をかけてしまいました。そういった意味では後悔はありますが野沢北で野球ができたのはとても良い経験になりました。

本当にこの三年間は毎日充実した日々を送ることができました。今まで支えてくださった皆様には本当に感謝しています。野沢北高校で過ごせたことに感謝しこれから

令和元年

体育祭

体育祭を振り返って

校内行事委員長
二年五組 由井 優作

僕は、野沢北高校生徒諸君の笑い、応援し、懸命に戦った生徒一人一人のあの姿を忘れることは決してないだろう。

今年行われるイベント等々において、令和初の〇〇と言われる世の中で今年も体育祭がやってきた。準備の段階から困難な点が多く、授業中の居眠りができないほどの不安に駆られた。しかし、多くの仕事を前に疲れた素振りを一切見せずに仕事をしてくれたことねさん、いつも笑顔でいてくれたみさきさん、この二人の協力なしには今回の体育祭を行うことができなかったであろう。自分の統率力や計画力がないばかりに体育祭に携わっていただいた真田先生



をはじめとする先生方や委員の皆さんに負担をかけてしまったことを謝罪するとともに感謝を伝えたいと思う。体育祭当日は、ハブニングに見舞われたが生徒会役員の迅速な行動により直すことができた。競技に関しては、選手は正々堂々とプレーをし周りの人は大きな声で声援してくれていた。クラスで一丸となり楽しみ、「令和初の体育祭」を無事に終えることができた。しかし個人的な感想としては、二年連続の優勝を目指した2年5組であったが惜しくも一点差で優勝を逃してしまった。とても悔しい。来年度の体育祭では勝ち取る意思で臨みたい。まだまだ話したいことが盛りだくさんだが、ここで筆をおくことにしよう。本当に楽しい体育祭になったと心から感じている。

生徒会長

あいさつ

二年五組 櫻井 大地



生徒会長の櫻

井大地です。

ここでは、僕の大切にしていること、またこんな野沢北高校生徒会にしたいという願いを紹介したいと思います。

先日、ラグビーワールドカップが開催され日本チームはベスト8と躍進しました。僕は試合をテレビで見て感動しました。もちろん活躍しているシーンやノーサイドの瞬間も素晴らしいと思いました。が何よりもチーム一丸となり強敵に立ち向かっていく姿 (one team) という言葉で人気になりましたね。がとても印象的でした。これがまさに僕が大事にしていること、「協力すること」です。

野沢北高校の生徒皆で協力すれば、さまざまな行事を成功させることが出来ると思います。これからの学校生活、行事においてはクラス、学年、そして学校全体で一丸となり協力して向かっていけるよう、生徒会長としてできることを精一杯やっていききたいと思っています。どうぞよろしく願います。

の生活も充実したものにしていきたいです。三年間ありがとうございました。

3年5組 菅原みく梨

高校生活を振り返ってみると、キラキラした思い出がたくさん浮かんできます。日輪祭や修学旅行などのイベントはもちろん、毎日の学校生活も本当に楽しく、充実した3年間でした。

そんな高校生活の中で特に思い出深いのは、班活動です。楽しいこと、辛いことを仲間と共に経験することのできた時間はとても貴重なものだと思います。私は吹奏楽班に所属していました。吹奏楽班の仲間は尊敬できる人たちばかりです。同学年の中でも遠慮せずお互いにアドバイスをし合う様子や、班活の時間が終わってからでもできるようになるまで何時間も残って練習する姿から、たくさんことを学び、自分も頑張ろうと刺激をもらいました。班活のない日にも、買い物や映画館に行ったり、セルフ強歩大会をしたりと、多くの時間を一緒に過ごし、数え切れないくらい笑ったなと思います。

三年前の入学式から、あつという間のように感じた高校生活でしたが、1年生の時のクラスの集合写真を見ると、今とは全然違います。野沢北高校で過ごした3年間が、見た目も中身も大きく成長させてくれたのかなと思います。今まで関わってくださった全ての方への感謝の気持ちを胸に、これからも頑張って生活していきたいです。

班活動の大会結果 (2019年9月～1月) ※長野県大会以上の結果を中心に紹介します

運動班

◆陸上

<県大会>

(男子)
走幅跳 小須田亮祐 3位
(女子)
走高跳 坂根樺音 6位
5000m競歩 宮本裕子 7位

<北信越大会>

(男子)
走幅跳 小須田亮祐 17位

◆剣道

<県大会>

(男子)
団体戦 3位
個人戦 初戦敗退
(女子)
団体戦 初戦敗退
個人戦 初戦敗退

<北信越大会>

(男子)
団体戦

◆テニス

<新人選手権>

(男子)
A級シングルス
猿谷知紀 1R 長野日大 0-6
平林佑介 1R 飯田OIDE 6-0
2R 松商学園 1-6
B級シングルス
高城裕行 1R 松商学園 0-6
2019クリスマスカップ
野沢北Bチーム 2勝2敗
予選トーナメント 7位
野沢北Aチーム 1勝3敗
決勝トーナメント 15位

<新人選手権>

(女子)
個人戦 B級ダブルス
北澤・篠原 1R 0-6 長野吉田

◆バスケットボール

<新人県大会>

(男子)
本校 60-66 赤穂

(女子)
本校 54-156 豊科高校

◆バレーボール

<選手権県大会>

(男子)
本校 0-2 木曽青峰
(女子) ベスト16
本校 2-0 大町岳陽
本校 0-2 伊那弥生ヶ丘

<新人戦県大会>

(男子)
本校 0-2 長野商業
(女子) ベスト16
本校 2-0 塩尻志学館
本校 1-2 長野日大

◆ハンドボール

<県大会>

(男子) ベスト8
本校 32-17 木曽青峰
本校 22-35 長野南
(女子) ベスト8
本校 31-14 松本美須ヶ丘
本校 9-13 屋代

◆卓球

<新人戦県大会>

(女子)
団体戦 本校 0-3 須坂創成

◆バドミントン

<新人県大会>

(男子)
個人戦(S) 田嶋聡哲 2回戦敗退
個人戦(W) 田嶋・三浦 1回戦敗退

◆弓道

<新人戦県大会>

(男子)
団体 予選敗退
男子個人 予選敗退
(女子)
団体A・B 予選敗退
個人A・B・C 予選敗退

◆水泳

<県総合体育大会>

(男子)
甘利一真 200m背泳ぎ 3位
400m自由形 5位
(女子)
櫻井景都 100m自由形 8位
高柳美礼 800m自由形 8位

◆サッカー

<ユースリーグ4部>

(男子)
8勝2敗 優勝(3部リーグ昇格)

<新人戦東信大会>

(男子) ベスト8
本校 1-0 上田千曲
本校 0-1 上田

<高校サッカー選手権県大会>

(男子)
本校 4-0 木曽青峰
本校 3-3 駒ヶ根工業 PK 5-6

<新人戦県大会1回戦>

(男子) ベスト32
本校 0-1 松商学園

文化班

◆棋道

<長野県高等学校将棋新人選手権大会>

菊池友恒 第5位
佐藤駿 ベスト16
小平碧人 ベスト16
団体戦 第3位

◆英語

<ディベート県大会>

33チーム中 17位、22位、32位

<第16回長野県高校生英語スピーチ・レシテーションコンテスト>

スピーチ部門
2年2組 中澤環 信濃毎日新聞社賞(3位)

◆吹奏楽

<長野県管楽器個人重奏コンテスト>

個人の部
白石ひかる サクソフォン独奏 銀賞
重奏の部
打楽器二重奏 金賞 金管三重奏 銀賞

◆軽音楽

<第15回長野県高等学校文化連盟軽音楽専門部県フェスティバルPower Live 2019 KF>

1バンド出場
Crazy Thursday
(2年:佐藤・柳澤・永岡・谷津)

◆美術

<第41回長野県高等学校美術展>

ホクト文化ホール>
2年 小林萌 出品

◆音楽

<第18回長野県ヴォーカル・アンサンブルフェスティバル>

出場 ダイヤモンド賞(最優秀賞)
全国大会出場

<第13回声楽アンサンブルコンテスト全国大会>

出場

◆書道

<第14回全国高校生 刻字展>

渡邊美咲 入選 / 長谷川美和 入選
柳澤大喜 入選 / 土屋麟 優秀賞
中澤環 秀作賞

編集後記

2020東京オリンピック・パラリンピックイヤーがスタートしました。

佐久市での聖火リレーは4月2日です。オリンピックを身近に感じられる良い機会になることでしょうか！

日々、学業に班活動に邁進している北校生の皆さんもそれぞれにステップアップする季節ですね。

この1年、皆さんの心の中にはどの様な学校生活の思い出が残ったのでしょうか……「あざみ沢通信」に皆さんの学校生活の成果と成長を掲載しました。作成に伴い、

多くの方々のご協力をいただき、誠にありがとうございました。

保護者の皆さまは北高のホームページをご存知でしょうか？私は校長先生の「校長日記」のファンです。

我が子の通う高校の様子が知ることが出来、親しみを感じますし、文化班・運動班などで活躍している生徒の皆さんの活躍の姿も見られて楽しみです！

日頃の、先生方の熱心なご指導により、子ども達が快適な学校生活を送っていることに感謝いたします。

施設広報委員長 池田 裕子